

## 6-D

(原文)

チャケ レオン (11 歳)

ドイツ・バイエルン州

2022 年 2 月 24 日。世界中の人々が多くの感動に包まれた中国での冬季オリンピックが閉幕し、続く冬季パラリンピックの開会式を楽しみに待っていたにもかかわらず、いきなりロシアがウクライナに軍事侵攻を開始しました。そしてそれは小さな子供までも巻き込んだ酷いやり方の攻撃で国際社会から強い批判を浴びる事になりました。その結果、たくさんの難民が僕の暮らすドイツを含む西側ヨーロッパに逃れて来る事になったのです。

侵攻が始まって 3 週間が過ぎた頃、僕のクラス 6-D にウクライナから男子生徒 2 人を迎える事になりました。彼らはドイツにいる親戚などを頼って比較的早く避難できた難民ですが、明日も普通に続くと思っていた友達との楽しい時間など平和な日常を突如奪われて言葉も文化も違う異国にポンと放り出されてしまったのです。僕はクラス委員長をしていますが、どうしてもじっとしている事ができませんでした。ウクライナ語を少しでも話せるようにとネットで調べました。彼らはウクライナ語しか話しません。最初は誰とも話さなかった 2 人でしたが、僕は毎日必ず「おはよう」と「また明日」をウクライナ語で話しかけました。

ある日、先生がウクライナ問題について話し合う時間を設けました。多くのクラスメイトはロシアが悪いと意見しました。ドイツのニュースを見ているにもそのように感じる報道が多いです。しかし僕は手を挙げ意見をする事ができませんでした。それはクラスにはロシア人の子もいるからです。それに僕にはまだこうなってしまった歴史の流れや、ウクライナをすぐに助けられない世界各国の政治的な思惑がわかりません。やはりロシア人のクラスメイトの元気がどんどんなくなっていました。

僕はクラス委員長としてどうしたらいいのか考えました。そして 100%ではありませんが、ロシア語はウクライナ人の生徒も理解できるという事を知り、ロシア人の生徒が僕たちのクラス内でウクライナ人の生徒に通訳できるんじゃないかと提案しました。

今では休み時間に一緒にドイツ語の勉強をしたり、みんなでサッカーができるまで仲良くなりました。僕は日本とドイツのハーフだし、クラスにはベトナム人、中国人、ロシア人、トルコ人、イギリス人、ポーランド人など、ドイツ以外にルーツを持つ生徒が多くいます。さらにはシリアからきた難民、ウクライナから来た難民もいます。考え方も文化も宗教も母国語も違う生徒同士が一つのクラスにいるのです。もちろんケンカもする事もありますが、必ず誰かが間に入りお互いの主張を聞き、最後には両方が相手の感情を受け入れて「ゴメン」と言って仲直りします。6-D には違う価値観を持ったいろ

んな国籍の生徒がいますが戦争なんて起こりません。本当にいいクラスだと思います。

どうして戦争は起こるのでしょうか？ 戦争というのはお互いの国が相手側の主張する事を受け入れられず妥協点がない場合に起こりますが、今回のロシアによる侵攻をドイツはもちろん誰か本気で止めようとしたのでしょうか？ それともただ傍観していたのでしょうか？ 世界の「クラス委員長」は何をしているのでしょうか。そう思うと腹が立って仕方ありません。

世界各国の首脳の方々に僕たちのクラスをぜひ参観して欲しいと思います。そして考えてみて欲しいです。価値観は誰とも全く同じになる事はありません。たとえ家族でも価値観は 100%同じではないのです。違うのが当たり前ののですから同じ地球上に暮らすからには受け入れ、尊重し合うしかありません。僕たちのクラスも今の世界情勢と同じように複雑です。でもこれから何か問題が起こってもみんなで解決し上手くやっています。6-D のあり方は僕たちが示す戦争に対する抗議であり、考え次第で戦争はなくせると思うのです。